

編集 後記

本年2005年は、第2次大戦が終戦した1945年から数えてちょうど60年目の節目の年です。この間、私たちの暮らしや健康に対する価値観は大きく変わってきました。その足跡をしっかりと眺めることができるのが戦後早い時期から学会機関誌として刊行され続けてきたこの日本公衆衛生雑誌ではないでしょうか。本誌をじっくり見てみますと、それぞれの時期の公衆衛生の歴史をよく反映していることがわかります。掲載論文1編1編にこめられた学会員の皆様の学問的な関心の有り様、問題意識、研究内容の変遷がよく見えます。今号も、いずれも力作揃いですが、中でも「ハンセン病回復者の社会復帰時の生活に関する研究——再入所者への面接調査から」を読み、日本のハンセン病患者さんの長い苦難の道のりを改めて感じさせられました。1996年の“らい予防法廃止”以前にハンセン病療養所から一度社会復帰をした経験をもち、現在療養所で生活しているかたがたが、過去の社会復帰時の生活をどのように認識しているかについて書かれたものです。日本公衆衛生雑誌ならではの貴重な論文になっています。

本誌には、本年9月に札幌で開催される第64回日本公衆衛生学会の詳しい案内を載せていただきました。今年の学会テーマは「環境と人権がつくる人々の健康と安全」です。(ハンセン病でなくとも) HIV など現在でも種々の stigma を抱える病気の患者さんや、あるいは子どもや高齢者の虐待問題、障害者やホームレスなど多くの困難を有するかたがたを視野にいれ、人々の人権と健康の問題にもっと光が届くこれからの日本の公衆衛生学であるように願いつつ、新しい分科会「人権と公衆衛生」をつくりました。17年ぶりの北海道での総会開催ですので、多くの演題発表とともに研究の成果を本誌に掲載されますようお願いして編集後記とさせていただきます。

(岸 玲子)

次号予告 (第52巻・第3号)

原 著

在宅障害児者の介護者の施設入所希望に関連する要因……………谷掛千里

長期要介護のリスク要因に関する疫学研究

基本健康診査受診者の追跡調査から

……………郷木義子, 他

小学生の朝食摂取行動の関連要因……………春木 敏, 他

高齢者の「日常生活活動における関心の志向性」

尺度作成の試み……………後藤康彰, 他

資 料

郵送法とe-メール法による感染症情報メーリングリストの運用管理に対するニーズ調査

……………大熊和行, 他

地域福祉権利擁護事業における地域の連携実態とその特徴

基幹的社会福祉協議会と介護保険担当課の連携

事例から……………東野定律